

**Asia Pacific  
DX Convention**

<http://apdxc.org>

**November 5 - 7**

**2010**

Meet hams from the world

All our programs are in **English**

Enjoy **Welcome party** and **DX dinner**

A fun local **sightseeing tour** by chartered bus

Join **Icom factory tour** to see how radios are made

Meet with Icom engineers at a **Q&A session**

and *more ...*

For the details, visit [www.apdxc.org](http://www.apdxc.org)





**シャッター・チャンス** JH3AEF 東條 純一

永らく飛翔の瞬間をとらえるのは至難の業でした。しかし、デジタルカメラの普及により、誰にでも比較的簡単にご覧のような映像を写し止めることが出来るようになりました。それでも、いくらデジタルカメラとはいえ、昆虫のように小さな相手にはオートフォーカスの機能は無効なようです。この部分は焦点深度の深いレンズを使うことによりカバーいたしました。



蝶の動きを止めるには1/1000秒位までシャッタースピードを上げる必要があります。明るいレンズも必須ですが、デジタルカメラはフィルム感度ASAを自由に操作して必要なだけ感度を上げることができます。そのため1/1000秒のハイスピード下でも絞り方を充分絞り込むことができるのです。それでも露出に不足がある場合にはフラッシュの助けをかりることもあります。コンパクトデジカメで相当な写真がとれるようです。一度お試しください。

キャノン50D 15mm F2.8 ASA800 1/1000絞りオート

# キューバ (CO) 旅行記

JA31VU 北井 十生

2010年9月16日からキューバへ行ってきました。初は「イグアスの滝」を見に行く予定が参加者が少なく催行されずこの時期に催行される「キューバ」に行くことになりました。キューバはカリブ海にある国、中南米での社会主義の国とあまり情報のない国でしたが魅力のある国の一つである。出発はまたまた「成田」です。どうして関空から出発出来ないのか???

17時00分発のAC002に乗るため伊丹 (TM) から14時20分発のJL3006で成田 (NRT) へ、成田 (NRT) には15時35分に着いたが第2ターミナルから第1ターミナルへのバスでの移動と時間がかかりツアーの受付に着いたのは16時を回っていた。

荷物は乗り継ぎ時間が少ないので事前に家から成田空港へ送っておいだ。ツァコンさんが今か今かと待っていた。すぐにチェックインをしてゲートへ。このまた一番遠い端っこのゲート。到着が遅れたようで出発は17時20分となっていた。今回のツアーは11人、ツァコンが付いています。

成田 (NRT) からカナダのトロント (YYZ) まで約12時間のフライト。トロント (YYZ) に16時すぎ到着したがキューバへの便はないので一旦、カナダに入学し、このホテルで一泊することになった。

2日目、トロント (YYZ) 発 8時25分のAC970に搭乗するため早朝04時半にモーニングコールされ、5時半にはホテルを出発した。空港までは送迎バスで15分くらい到着。チェックインをしてゲートへしばらくすると陽が昇り始めた。やっとのことでAC970 ハバナ (HAV) 便に乗り込んだ。機内は満席ではなく乗客は6割くらい。飛び上がるとすぐに五大湖が見えしばらくすると雲の上でたぶんアメリカの上を飛んでいるようでした。眼下に海が見えてきました。どうやらフロリダ半島の上を飛んでようです。

しばらくすると下降を始め、海岸線と緑の多い島が見えてきました。無事にハバナ (HAV) 空港に到着。こじんまりした空港のようで滑走路は1本、ターミナルは1つ、搭乗口橋が8つほどしかありません。キューバはビザは不要ですがツアーリストカードが必要で事前に在日キューバ大使館で取得しました。その代わりにパスポートには入国スタンプは押されませんのでトロントにキューバに行ったのと言われると証拠がありません。ツアーリストカードの写真を撮っておけばよかった。

やっとキューバに着きました。時間がかかりますねえ。経済制裁のためアメリカからの直行便はありませんのでカナダ、メキシコなど経由して入るしか方法はありません。

空港でまず両替 円、ユーロ、カナダドルが手数料8%、米ドルは18% 3年前にカナダへオーロラを見に行った時のカナダドルが残っていたので外国人用の兌換ペソに両替。およそ1米ドルが1兌換ペソになる。キューバ人が使う人民ペソは1兌換ペソの24分の1の値打ちだそうです。さっそくハバナ市内観光へ、走っているのは1950年代のアメ車、まあ古い車が多いこと、エンジンはガソリンが食うのでジーゼルエンジンに載せ替えているとのこと、ガソリンは1リットル1兌換ペソするそうでキューバ国民にとってはとても高い。しかし観光バスは中国製で車内は日本製と変わらず乗り心地もまあまあ。速度も100キロくらい出るようでした。高速道路もあり市内の道路も広いというよ、車が少なく、渋滞もなく市内中心部へ、まずは革命広場へ「ホセマルティン記念塔」のまわりのビルの壁には「ゲバラ」と「カストロ」の絵がある。この二人、キューバでは英雄だ。日本でも最近「ゲバラ」の映画が公開されていた。旧市街の「旧国会議事堂」へ、ワシントンにあるアメリカの国会議事堂によく似ている。

市内はスペイン統治時代の建物、アメリカの実行統治時代の建物と混在しており、建物は決してきれいとは言いが、街にはゴミもなく、歩いている人も生活を楽しんでいるように見えた。街は1950年代のアメ車の展示会のようなものでよく50年も乗っているものだ。同じ車に10年も乗らない日本人が驚愕しているのかもしれない。どうも車体の塗装は手 (ハケ) で塗っているようで焼き付け塗装などしていない。色も黄とか緑とか青とか赤とかそれも単色が多い。昔の車は鉄板が分厚いので錆びても穴が空きににくいのでしょか。



革命広場 「ゲバラ」の絵の前で



キューバ 旧国会議事堂



アメリカ国会議事堂

その後、スペインの街ではどこにでもある街の中心であるアルマス広場へ、ヘミングウェイが「モヒート」(ホワイトラム酒にミントの葉、シモンジュース、を合わせた爽やかなカクテル)をよく飲みに来たというバー(「ホギータテル・メティオ」)に行き、同じものを飲んでみた。甘い度はきつかった。やっとホテルへ 新市街地にある近代的なリゾートホテルで一泊。夕食後 2時から始まる「トロピカーナ・シヨウ」へ「マンボ、ルンバ、チャチャチャ」などラテンのリズムと音楽、ダンスきれいですばらしい。ホテルへ帰ると日が変わっていた。今日の一日は長かった。

3日目、ハバナ市内 ラム酒博物館(「ハナ クラブ」)、スペイン時代に海賊からハバナ湾を守るため作られたモロ要塞へ。今は燈台と当時の大砲が湾に向けて鎮座している。ここから見るハバナ市内も良い眺めです。

ハバナ郊外にあるヘミングウェイが住んでいた場所が博物館になっている。その後「老人と海」の舞台となった漁村「コヒマル」へ。その古いレストランで昼食。

午後、ハバナからバスで6時間ほどかかるキューバの中央部の南にある古きスペイン時代の面影が残る「トヘーダ」へ ホテルはカリブ海に面した「リゾートタイプのホテル」 宿泊客は主にEUからきており2~3週間は滞在するようです。彼らからすると私たちように一泊のみは考えられないようです。部屋にはテラスが付いており、ここから椰子の木にアンテナを張って無線ができればさぞ楽しいのに思いました。いつの日かカリブからOn Airをしてパイルアップを経験したい。このホテルはオールインクルーシブというシステムをとっており、食事、アルコールを含むドリンク、アクティビティが宿泊費用に含まれている。

4日目、トヘーダ市内観光へ 小さな街でスペイン時代をそのまま残している街である。また、バーでキューバ音楽を楽しみながら「カンチャンチャラ」(ラム酒にレモンとハチミツを入れた飲み物)を飲んだ。次にさとぎび農場跡へ 奴隷の監視するための塔に登ると付近一帯がよく見える。

ここで昔ながら 人手で押して回す圧搾機さとぎびをで絞る。出てきたものをまた飲む。さとぎびだけに甘い。

また、バスで4時間 今度はキューバ北部にリゾート地「パラデロ」へ 道路の両側にはさとぎび畑がづく。

夕方、ハバナから西へ約14kmのパラデロに到着 革命前はアメリカの富豪たちの別荘地だったらしい。化学メーカーのデュボンの別荘もここにあったとのこと。ここも「リゾートタイプのホテル」でオールインクルーシブというシステムをとっている。ホテルの中には限る食事や飲み物を自由に食べ、飲める。便利だ。

ここもEU、カナダの宿泊客が多く 2~3週間は滞在するようです。特にカナダから冬に避寒(避暑)にくるそうです。カナダからの直行便がキューバ国内の空港あるそうです。ただしアメリカからの便は一つもありません。

5日目、砂糖産業で栄えた、マンボの神様 ペレスピラードが生まれた マタンタスへ ここもスペイン時代の建物が多く残っている。午後はフリータイムとなったのでパラデロを町を一周する乗り放題の2階建てバスに乗る。いろいろな国からきている人たちが乗ったり降りたり ガイドブックを見ながら博物館に行こうとしたが場所がわからず町の人に聞くがこれがスペイン語でわからない。なんとか何回か聞きながらやっと着いた。わかるスペイン語は1、2、3と59(???)ぐらいか。こんなところで無線が役に立った。

6日目、パラデロからハバナに戻り帰国へ また、カナダへ入国 トロントで最初のホテルにまた一泊 7日目 トロント空港から成田へ 成田から伊丹へ 帰りだけで3日使っている。もったいない8日間の旅行では……

アメリカの経済封鎖の影響と日ソ連、東欧諸国との貿易もままならず自給自足をめざし、いままでの国内の産業もコーヒーや砂糖だけでなく、カナダとの合弁企業で油田の開発をしている。



(ハバナ市内)

こういうところは5月に旅行したイランでも同じようなことをしているようだ。日本も外国に食料を頼るだけでなく自給自足を目指さなければならないと思う

キューバは私たちにとって未知の国だ。情報が非常に少ない。中南米 唯一の社会主義の国だけで「カストロ、ゲバラ」が活躍して革命を起こしたのは50年以上の前の話だ。出かけてみて 短期間であったが 私たちが思うような豊かさはないかもしれないがキューバ人は楽しく生活をしているように感じた。

終わりに無線の話

無線のアンテナは放送局と公共的な建物ぐらいいしか見かけなかった。しかし携帯電話はGSM方式であったが幹線道路、市内では使用できた。

ホテルのテレビは衛星と思われるが外国の放送はCNN、BBC、中国のチャンネルは3つあった。

8日間の間に日本のニュースを見ることはほとんどなかったが中国のニュースを見ていたら「管総理」が出ていた。

字幕が漢字なので何となくわかる。キューバには中国人が多いということでしょうか。

国内向けの中に日本のアニメ「ワンダースの犬」がスペイン語の吹き替え、タイトルなどは日本語そのまま放送していた。



(カリブの夕陽)